



〈連載164〉

ポッド推進両頭旅客カーフェリー 「ドイッチェランド」に乗る



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授

池田 良穂

前 回の本欄でご紹介したデンマークでの国際会議「フェリー・ SHIPPING会議03」に参加した後、2隻のポッド推進のフェリーに乗船することが出来た。欧州では、短距離、長距離ともにポッド推進のRORO旅客フェリーがたくさん就航するようになっている。また日本でも、新日本海フェリーが国内初のポッド推進高速フェリーを発注して話題を集めているので、ぜひとも実際に操船に当たっている船員からの話を聞いてみたいと思っていた。

今回は、短距離航路に就航する両頭フェリー「ドイッチェランド」を紹介しよう。

コペンハーゲンの空港でベンツのレンタカーを借りた。「まだ50キロしか走行していないピカピカの新車ですよ」と言うレンタカー会社の窓口の女性の言うとおり、ピカピカの新車が駐車場に待っていた。この車で、空港から南に約180キロ、約1時間半の快適なドライブでデンマークの南端に位置するロッドビーに到着した。ここからスカンドライnzの運航するフェリーに乗船すれば、わずか45分でドイツのブットガ

ルデンに到着する。スカンドライnzは、元のデンマーク国鉄連絡船等を中核として発展したフェリー会社で、最近では、周辺のフェリー会社を吸収して急速に勢力を伸ばしている。

高速道路の終点がフェリー乗場のゲートになっていた。日本の高速道路の料金所のように、いくつかもの支払所が並んでいたが、4月はじめのシーズンオフの閑散期のためかゲートは1つだけが開いていた。クレジットカードで運賃を支払うと、「5番レーンに進んで下さい」との指示。各レーンには信号機があり、その指示に従って車を進めることとなる。



ロッドビーのフェリーターミナル
信号機によって車を制御する

乗船するのは13時発の「ドイッチェランド」。1997年に建造された船で、ポッド推進器4器を備えている両頭船だ。出港の15分前に、レーンの信号が赤から青に変わり、いよいよ乗船である。乗用車の場合には同乗9名までOKで、航走運賃は約7000円であった。徒歩客の運賃は、シーズンオフでは約500円、夏のピークシーズンでは900円となる。この航路には総トン数15000トン、旅客900名、18.5ノットの両頭船が4隻就航しており、年間輸送実績は旅客600万人、乗用車136万台、トレーラー27万台、バス3万台となっている。車両甲板は2つあり、下はトレーラー用、上は乗用車で、それぞれ陸上に別々のランプがあるシステムになっていた。



ドイッチェランド



ラウンジ

車両甲板から階段で、旅客用施設に上がる。旅客設備は2層にわたってあり、それぞれのラウンジには軽食や飲物を売るカウンターがあり、またステーキ&シーフードを出すレストランも設けられている。また、売店もあり、免税品の販売はなくなったものの、各国の税金の違いから、買い物を目的に乗船する旅客が結構いるようだ。

前述の国際会議で会ったスカンドラインズの重役にブリッジ等の見学を申し入れていたので、案内所に出向くとすぐに船長に連絡をとって来てブリッジに招かれた。ポッド推進器は、素晴らしい操縦性能をもち、今後はもっと普及するに違いないとの確信に溢れた船長の説明が印象的であった。最初はシールの問題などあったが、今ではすっかりなくなり、信頼性もよいとのことであった。操船は、すべての推進器を統合しても、2つずつの組み合わせでも、もしくは4つ独立でも操作することができる。製造メーカーはショッテルで、1つのポッドの前と後にプロペラのついたタイプである。



ブリッジ

わずか45分の航海ではあるが、乗客の満

足度を挙げるために、レストラン機能や売店の機能ももっているのが印象的であった。短い航海でも、車に乗って来た人は高速道路の休憩所と同様に、軽い飲食をするのが普通のようなのだ。

プットガルデンでは、入港の状況をブリッジで見学させてもらった。スムーズに頭から着岸し、岸壁のノレント社製の自動係船装置が船体を掴むシステムであった。岸壁には綱とりの作業員の姿はない。

プットガルデンのフェリーターミナルの横に、スカンドラインズが洋上ショッピングセンターをオープンしている。「ボーダーショップ」と名づけられており、税金の高いデンマークから、税金の安いドイツへ

の買出客がフェリーを使って大勢出かけてくるとのことであった。

この乗船の前にコペンハーゲンで参加した「フェリー・ SHIPPING 会議」において、スカンドラインズの重役が、「船上での免税品販売廃止という苦しい状況を脱して、ボーダー・ショッピングという新しいビジネスモデルが完全に機能し始めて、会社の経営状態は非常に良くなっている」との報告をしていた。また、事業を拡大して、全体の運航効率を向上させたことも経営改善に大きな寄与をし、「完全にスカンドラインズは復活した」と高らかに宣言していたことを実感させられた。

IMO規制

にマッチした

電磁式液面計

レベルマスター

特 色

“積揚荷協定”
に使用可能です。

1. 完全密閉式
2. 本質安全防爆型
3. 上下限警報：可変設定
4. 集中監視と常時監視可能
5. ケミカル船、LPG船に最適
6. 保守点検が簡単



ムサシノ機器株式会社

本社・工場 東京都大田区南雪谷1丁目2番15号
〒145-0066 電話 03 (3726) 4411 番 (代表)